

浜松医科大学医学部看護学科設置30周年記念式典を開催しました

2026年03月27日

本学医学部看護学科は、設置30周年を迎えたことを記念し、3月14日（土）、ホテルクラウンパレス浜松において記念式典を開催しました。学内外の関係者や卒業生など多くの方々にご参加いただき、看護学科の歩みを振り返るとともに、今後の発展を願う有意義な機会となりました。

式典では、渡邊裕司学長の挨拶に続き、川崎市立看護大学 荒木田美香子副学長、本学基礎看護学講座 三浦友理子准教授による記念講演が行われ、看護教育の歩みやこれからの看護職に期待される役割、看護学科学生・卒業生の強みなどについてご講演いただきました。また、山下寛奈同窓会長より同窓会の活動について紹介があり、卒業生同士のつながりや母校への思いが共有されました。

引き続き開催された懇親会では、卒業生や教職員及び関係者が世代を超えて交流し、恩師との再会や学生時代の思い出話に花を咲かせる、和やかな時間となりました。会の終盤には、これまでの歩みを振り返るスライドショーが上映され、会場は懐かしさと感謝の思いに包まれました。

本会を通して、看護学科がこれまで多くの方々を支えられて歩んできた30年の歴史を改めて実感するとともに、次の世代へとつながる新たな一歩となりました。



R8. 3. 17 (火) 静岡新聞 11面

浜松医大看護学科30年祝う 卒業生、教員ら記念式典

渡辺裕司学長は「卒業生が社会に大きく貢献していることは大変誇らしい。今後も世界に誇れる看護教育の拠点として発展し続けることを願っている」とあいさつした。学科関係者の講演も行われた。

同学科は県内初の国立大学の看護学科として1995年に設置された。災害看護や国際看護を学ぶカリキュラムを導入したほか、2022年に高度実践看護師の育成などに向けた博士課程を設置するなど機能拡充を進めている。25年度までに延べ1821人の卒業生を輩出し、県内の医療現場や行政機関などで活躍している。

浜松医科大（浜松市中央区）は14日、看護学科設置30周年の記念式典を同区で行った。卒業生や教員ら約100人が出席し、これまでの歩みを振り返りながら節目を祝った。



看護学科設置30周年を祝う記念式典
—浜松市中央区